

平成 30 年度茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

| | |
|-------|--|
| 開催日時 | 平成 30 年 8 月 22 日（水） 14 時 00 分 ～16 時 10 分 |
| 開催場所 | 茂原市役所 504 会議室 |
| 出席者 | 推進会議委員 10 名（所用のため欠席 4 名） 豊田副市長、事務局（鶴岡企画財政部長、麻生企画財政部次長兼企画政策課長、渡部企画政策課政策推進室長、米倉企画政策課主査、大塚企画政策課主事、三神企画政策課主事）、担当課（渡辺茂原市民体育館長、鶴岡商工観光課振興係長、芝崎農政課主査） |
| 会議次第 | 1. 開会 2. 委員紹介 3. 委嘱状交付 (1) 交付式 (2) 自己紹介 4. 座長選出 5. 協議 ① 平成 29 年度茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策について ② 平成 30 年度地方創生推進交付金について ③ その他 6. 閉会 |
| 会議要旨 | 3. 挨拶 |
| 豊田副市長 | 本日はご多用な中、お集まりいただきありがとうございます。 このたび、皆様方におかれましては「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の委員についてご承諾いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より市政各般にわたってご協力いただいておりますことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。 それこそ、ここにおられる皆様方につきましては、大変お忙しい立場であることは承知しながらも、現在本市で平成 27 年から、進めております総合戦略の産・官・学・金・労の各専門分野の代表としてご協力願いたいと思います。 平成 27 年度の総合戦略策定時には 91,646 人でしたが、8 月 1 日現在の人口は 89,963 人と△1,683 人となっており、市の推計人口は上回っているも |

の、総合戦略で目標とする人口は下回っている状況です。特に人口自然減が毎年 500 人程度という多死社会の状況となっております。

日本の総人口が減少する中で、本市の人口を維持するという大変厳しい状況ですが、「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、引き続き、雇用の場の創出や若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるための施策及び移住定住の促進や、まちの魅力発信、安全安心なまちづくりなどを重要な施策と位置付け、取り組んでいく考えでございます。

皆様方におかれましては、先程から申し上げますが、大変お忙しい立場であることは存じておりますが、皆様のそれぞれの立場からのご意見やご助言を頂ければと思います。

本日は誠にありがとうございます。

4. 座長選出

- ・委員より事務局提案を求められ、事務局より千葉大学教授関谷委員を推薦した。出席委員の同意により、関谷委員が座長に選出された。

5. 協議

① 平成 29 年度茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策について

1. 産業が力強く成長するまちについて概要説明
事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

委員

地方創生拠点整備交付金を使って整備された「旬の里ねぎぼうず」は大変活気がある。知り合いの農家さんと顔を合わせ、話をする場にもなっており、こういう施設がまちのあちこちにあるといいと感じている。

地方創生推進交付金を使って行ったドローン利活用調査業務で何を行ったのか、詳しく聞きたい。

事務局

平成 29 年 11 月 25 日（土）にショッピングプラザアスモのセンターコートとイベントスペースにおいて、最新ドローンの展示やドローンの操縦体験、ビジネスセミナーなどのイベントを行った。昨年度はイベントに来ていただくために、どちらかと言えば楽しめるイベントを企画した。

委員

事前の PR や事後の報告などはこういった形でおこなったのか。

事務局 事前 PR としては広報もばら、茂原市ウェブサイト、商工もばらに掲載し、小中学校にチラシの事前配布を行った。事後の報告はシティライフに掲載していただいた。

委員 市民にそういった情報を知らせることは大切である。ドローンの技術は日進月歩で進んでおり、茂原でドローンのビジネスが行えるとなれば、まちのアピールとなりうる。

委員 イベントを行い、具体的に新たなビジネスが生まれたということはあったのか。

座長 今は可能性を模索している段階。それをどうまちづくりに活かしていくかが大切である。ドローンは農薬散布や災害救助など、様々な場面で活用されている。すでに特区申請を行い、ドローン産業をまちづくりの核としている自治体もあるため、茂原市としてどう産業振興に結び付けるか検討していかなければならない。

委員 資料3について、交付金を活用して行った事業とその内容についてはわかるが、これがどういう関連性をもってまちづくりに繋がっているのかわかりにくい。事業ごとの横の関連がわかりやすいように提示していただけるとありがたい。

事務局 資料1と3の組み合わせ方を工夫し、より分かりやすい提示の仕方としていきたい。

委員 総合戦略にはたくさんの施策があり、項目ごとにそれをすべて追っていくのは大変な作業である。ある資料で大筋が理解でき、細かい内容については別の資料がある、という形だと分かりやすいと思う。

都市計画マスタープランについて、茂原市の景観資源について QR コードを使って情報を表示させてはどうかという話が出ている。IT 機器は進歩しているため、うまく使ってほしい。

委員 拠点整備交付金事業については際立って効果が出ているようだが、その要因は何だったのか。特に有力だった施策などがあったのか。

事務局 農産物直売所の売り場面積拡大が有力だったと考えている。約30坪だった面積が約100坪にまで拡大し、組合員総数と販売を行う組合員数が増加した。農業を行っている人が大きく増加したということはないが、売り場面積と商品販路の拡大によって効果が出たものと考えている。

委員 にはる工業団地には6社が立地するとの説明があった。予定されている従業員数とその不足状況について情報が入り次第、情報共有をしていただきたい。

事務局 現在は事業計画の段階であるため、細かな従業員数などはわからない。ただ、地域内採用を行ってくれるよう要望していくため、情報共有をさせても

らいたいと思っている。

座長

その他、意見・質問等ないようであれば、提案の内容でご了解いただけるか。

(異議なし)

2. 結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまちについて概要説明 事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

委員

子育てを応援するというのは大変重要な施策である。推進委員会議の委員の皆さんの中でこの分野の専門家はどなたになるのか。

事務局

本日はご欠席だが、千葉大学附属幼稚園教諭の田中委員がこの分野の専門家である。また、こちらもご欠席だが、茂原商工会議所青年部副会長の内山委員は同女性部の会員であるため、この分野には詳しいと思う。

座長

この分野は非常に難しいテーマである。現代においては、生活状況が変わり、結婚しない人も増えている。仕事をしながら子育てをするという環境をまちが作れているかが大切である。このまちではどういう子育てができるのか、どういう取り組みをしているのかといった、まちとしての子育ての質というものも大切になってきている。

また、国全体として地域間での若者の奪い合いが続いている。千葉県内においても取り合っている状況である。そういう中でどう子育て支援の魅力をアピールしていくか。子育てはまちの「ベース」を作る作業である。短期間のうちに結果はついてこないと思う。

委員

子育てとまちづくりは一体となって進めるべきである。せっかく子供がいても、東京の大学に進学して帰ってこなくなれば意味がない。茂原市を「ベース」と考え、戻ってきてくれるような環境づくりが必要である。

最近小さな子に挨拶すると不審者扱いされているのか、逃げて行ってしまふ。世の中は変わってきており、個人だけで完結し、地域とのつながりは必要ないという時代ではなくなっていると感じている。例えば、中高生と地元の人との出会いの場を設けるなど、地域にはどんな人がいて、どんな可能性があるのか知っていれば、戻ってきてくれる若者も増えるのではないか。関係人口という言葉もあるし、茂原のことを頭において関係していてくれる人を増やす方法もあるのではないか。

委員

職業安定所でも地元の学生に地元の企業を知っていただくという機会があれば、地元に残る学生が増えてくる。地元に残ってもらうためには転勤のない働き方を提案したり、それによって処遇が悪くならないような環境を

作ったりしなければならない。

大きな企業においては仕事と子育ての両立をアピールポイントとして、会社の中に保育所を作ったり、学校行事の時には休みが取れたりする。そういう取組みが拡大していけばよいと思う。

委員

商工会議所で体験教室を行っているが、小中学生はそれなりに集まってくる。しかし、今年度から開催した高校生対象のプログラミング教室には申し込みがなかった。高校生はこれから地元を離れて行ってしまふかもしれない世代であり、地元に残ってもらえるようにしていかなければならない。帰ってきてても良いと思える場が頭の中に一つでも作れば、と考えている。

委員

鹿児島県の伊仙町という徳之島にある町においては、一度は島から出ていくが、大人になったら戻ってくるという流れがあるようである。ここには地域で子供を育てる環境があり、島に戻れば何とか子育てができるという意識があるようである。一人の親としては、そういう地域コミュニティが茂原にもあれば良いなと思う。

委員

長生高校においては多くの生徒が大学に進学する。進学した子たちが戻ってくるとして、希望の職に就けるかという問題がある。働く地域と居住する地域は必ずしも同じでないが、市内に企業誘致していくというのは一つの解決策になりうる。

現在の高校生は非常に忙しい。放課後には部活をやっているし、夏休みには補習を受けており、意外と外部との接点がない。企業とのタイアップし、インターンや職業体験などを行い、就職への道筋が見えれば高校生へのキャリア教育という観点からもよいと思っている。

また、先ほど挨拶の話があったが、大人から積極的に挨拶をしてあげないと子供は怖がってしまう。大人の方から安心感を与えてあげないといけない。

委員

ベンチャー企業の創業者の中には、学校の勉強ができなかった人も多くいる。きっかけを多く与えれば、色々と目が向いていくと思う。

委員

もちろん長生高校においても勉強が一番だという教育をしているわけではなく、結果として大学に進学する生徒が多いということである。課題研究発表などを行い、色々な視点からのキャリア教育を行っている。

座長

働くということについての情報を得る機会が多くあることは重要である。また、「働く」と「学ぶ」を結び付けていくことはさらに重要である。大学の学生を見ていると、そこが結びついていない学生は多くいる。

その他、意見・質問等ないようであれば、提案の内容でご了解いただけるか。

(異議なし)

3. 市民の活力と賑わいにあふれるまちについて概要説明

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

委員 モデン工業株式会社と茂原市はどういった関係で企業版ふるさと納税を
いただいたのか。

事務局 もともと茂原市に本社があった企業であり、茂原市に思い入れがあったの
だと推測している。

座長 このテーマについては特に「賑わい」という言葉をどう捉えるかが重要で
ある。市民が街に繰り出していくという意味なのか、観光客がたくさん訪れ
るという意味なのか、焦点の合わせ方によって戦略も変化しうる。例えば佐
原のお祭りは地元が楽しむ祭りから観光客に楽しんでもらう祭りに変化し
た。だからこそ現在の賑わいがある。どういう意味での「賑わい」なのか、
整理する必要がある。

茂原はスポーツに力を入れているが、これも位置づけないといけない。銚
子市においては「スポーツツーリズム」を掲げている。まだどういう可能性
があるかは未知数だが、スポーツを観光客誘致の施策として位置づけてい
る。睦沢町はまちづくりのコンセプトに「健康」を据えている。

委員 資料1の(1)②のKPIに「インターンシップへの参加支援人数」とあ
るが、これは調査を行って確認するのか。

事務局 茂原市においては中小企業者への総合支援事業を行っており、その中にイ
ンターンシップへの参加支援という項目がある。これを活用していただいた
人数をここに計上している。

委員 大多喜ガス株式会社においてもインターンシップを行っており、小中学生
にも職業体験をしていただいている。大多喜ガス株式会社においては募集定
員までインターンシップが集まるが、他の企業の状況を聞いていると集まっ
ていないところも多い。子供たちにはぜひともいろいろな企業を知っていただ
きたいと思う。

座長 その他、意見・質問等ないようであれば、提案の内容でご了解いただける
か。

(異議なし)

4. 地域力が暮らしを支えるまちについて概要説明

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

委員 安心安全に暮らせるまちづくりについて、詳しい取り組みを聞きたい。

事務局 防犯ボックスをショッピングセンターアスモに設置したり、各地区にいる
防犯指導員の方に地域を回っていただいたりしている。防犯ボックスに勤務

している警察 OB の方と防犯指導員と一緒にパトロールするなどの連携もしている。

委員 いろいろな事業を行っているようだが、それを市民に周知するため、どういった広報を行っているのか。

事務局 防犯ボックスについては茂原署から感謝状を授与されていることもあり、そういったことは広報に載せている。防犯指導員については自治会ベースの活動であるため、自治会単位では周知がされていると考えている。

委員 自分は茂原に移住してきたが、地域では回覧板が回ってくる程度である。地域の活動は活発な地域とそうでない地域があると感じている。

委員 自治会加入率は6割程度である。その中でも活動に参加しているのは高齢者ばかりである。自治会には役員があり、中には年齢によって役員の仕事ができないからと自治会を退会する方もいる。それでは困るから個別に対応するなどしているところもある。

いわゆる「向こう三軒両隣」の関係が築けていれば自治会に入っていなくても関係が出来てくる。しかし、実際には自治会員とそうでない人を分けるような考えがある。特にゴミ置き場についてはトラブルが起りがちで、自治会員は掃除をするが会員でなければ掃除をしないというようなこともある。「向こう三軒両隣」の関係があれば、そういったトラブルも減ってくる。

今度日立市に視察に行くが、ここには自治会がない。しかし、ここは日立製作所の職員のまちであり、関係性が築けているため、地域内のまとまりは非常に強い。必ずしも自治会でなくても、地域にそういったつながりがあれば良いと思う。

その他、提案だが、茂原市の景観資源について記載があるが、都市計画マスタープランにおいて52の景観資源を定めた。昨年度はこのうちの3カ所について看板を設置したが、今年は予算の関係で1カ所しか設置できていないと聞いた。これを地域のPRとして捉え、他の事業と絡めれば、うまく進んでいくと思うがいかがか。

事務局 このご質問については次の議題と関係するため、そちらの説明をもって回答させていただく。

座長 その他、意見・質問等ないようであれば、提案の内容でのご了解いただけるか。

(異議なし)

② 平成30年度地方創生推進交付金について概要説明

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

事務局 先程の委員の質問については、茂原市の新たな観光地としての「ロケ地」と現在ある景観資源をうまくリンクさせていきたいと考えている。

座長 | その他、意見・質問等ないようであれば、提案の内容でご了解いただけるか。
 | (異議なし)

座長 | ③ その他について
 | 意見・質問等ないようであれば、提案の内容でご了解いただけるか。
 | (異議なし)

以上

※ 会議後に資料2の訂正があり、事業評価の変更を行った。全委員に訂正後の資料を送付し、確認を行っていただき、了解を得た。